

2012  
(2012.1~2012.12)

平成 24 年

# Japan River Restoration Network Annual Report

日本河川・流域再生ネットワーク 活動報告



隅田川（東京都墨田区）



日本河川・流域再生ネットワーク

<http://www.a-rr.net/jp/>

## ■ ビジョン (Vision)

人々の出会いと誇りに支えられた良好な河川の保全・再生が創り出す、健全な水循環系及び歴史・文化と共存する地域社会の実現を目指します。

## ■ 使命(Mission)

日本を含むアジアにおける河川再生の担い手の出会いの広場(横断的な連携基盤)を構築します。

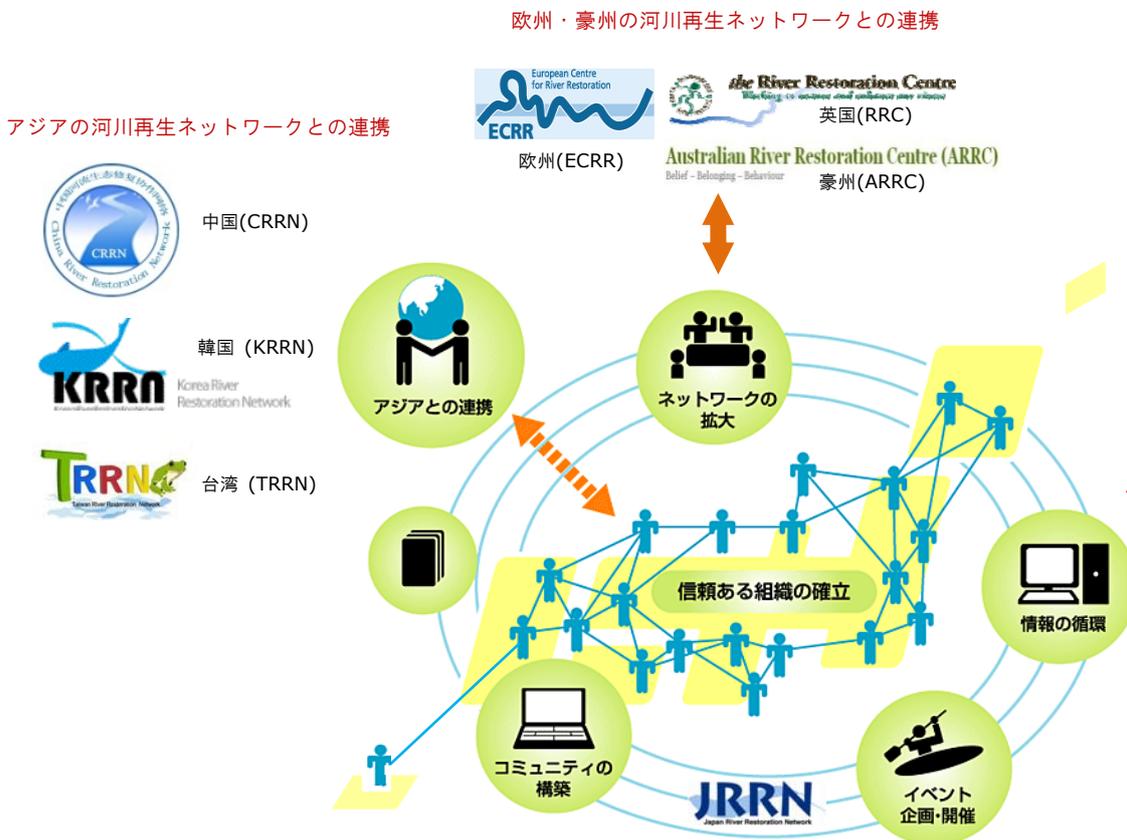
## What's JRRN? JRRN とは？

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生に関わる事例・経験・活動等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に 2006 年 11 月に設立されました。

また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。



## JRRN's Activity 活動内容



JRRN ホームページによる情報循環



JRRN 主催イベントでの会員交流

## 目次 (Contents)

- JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）からのご挨拶..... 1
- JRRN 活動報告 2012 ..... 2
  - 活動一覧（2012年1月～2012年12月）
  - 情報共有基盤整備（ウェブサイト）
  - 情報発信（ニュースメール・ニュースレター）
  - 会員交流（JRRN 主催行事等）
  - 国際交流（研修受入、技術交流支援等）
  - 調査研究
  - 出版
- ARRN（アジア河川・流域再生ネットワーク）活動報告 2012..... 10
  - ARRN 概要紹介
  - 情報交換・交流（国際フォーラム等）
  - 技術整備（河川再生ガイドライン構築）
  - 組織運営（運営会議・委員会活動）
- JRRN 組織概要..... 16
  - 会員構成（2012年12月現在）
  - 会員サービス



## JRRN(日本河川・流域再生ネットワーク)からのご挨拶



日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）事務局長  
佐合 純造

JRRN の活動は 2006 年のスタートから 6 年余となりました。

JRRN は、国内外の河川再生の話題を定期的に情報提供する「ニュースメール」、意見交換の場でもある「ニュースレター」の刊行、河川再生に関する各種講演会の開催、海外からの視察団受け入れ支援、また、河川再生のガイドライン作成、事例の収集・分析、学会への参加などに力を入れてきました。

また、発足以来、ARRN（アジア河川・流域再生ネットワーク）事務局として日中韓を中心とした国際的な河川再生の情報交流に貢献してきました。

2012 年の JRRN の主な活動ですが、会員皆様のご協力、事務局員の努力により、国内では、台湾、韓国、フィリピン、マレーシアなどの関係団体の来日に合わせた国際交流、また、海外では、フィリピンでの「第 1 回フィリピン国際河川サミット」、マレーシアでの「マレーシア河川フォーラム 2012」への参加や現地での交流、国内でも「市民による河川環境の見かた・調べかた～英国『PRAGMO』に学ぶ～」を開催しました。

刊行物では定期的な情報提供に加えて、ARRN 河川再生手引きや PRAGMO 日本版の発行、主催した講演会等の講演録の発行など多くの出版物、ニュースメール、ニュースレターの定期的発信に加えて、JRRN の様々な活動、会員からの情報提供等をホームページで公開しました。

3 月から 5 月の「桜のある水辺風景写真」募集や写真集発行も恒例の行事となりました。

以上に加えて、皆様への報告すべき事項として、2012 年 11 月の中国北京で開催した ARRN 運営会議の場で、6 年間行ってきた ARRN 事務局を中国 CRRN へ移管したことです。事務局は CRRN へ移ることになりました。しかし、HP 運営などの情報発信活動はこれからも分担協力しながら進めることにしています。

JRRN は河川、特に河川再生に関心を持った様々な方々が会員になって活動しています。

以上のような活動を踏まえて、JRRN が目指していることは、一言で言えば「川」の大切さを再認識であると思います。単に治水、利水、河川環境の重要さだけでなく、川そのものの大切さです。

そもそも、川とは何でしょうか。まず、川には水が流れていますが、水は人間だけでなく全ての生物にとって必須なものです。また、器である河川空間は多くの生物にとって餌場や生活の場になっていますが、人間にとっても言葉では簡単には表せない重要な場になっていると思います。たとえば、ある人は「論理や構築性のかけらもないが、人生を感じさせる場」と表現しています（松永伍一）。まさに鴨長明の「方丈記」や美空ひばりの「川の流れるように」の世界です。これ以上は河川工学を越えた議論になるかもしれません。

いずれにしても、以前にも述べたように、「川」を多方面から捉えて、河川再生はどのようなものにするのか、どのように進めるのか、JRRN としても大きな課題だと思っています。皆様におかれても様々な考えや意見をお持ちかと思っています。

JRRN は現在、個人会員が約 600 名、団体会員が約 50 団体（2013.3 現在）であり、順調に増加しています。JRRN 事務局では今後とも有益な情報提供を行い、会員どうしの有意義な交流ができるようにさらなる努力していきたいと考えています。JRRN は皆様の協力を得て、河川再生の発展に貢献できるように努力していきますので皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

## JRRN 活動報告 2012

## 活動一覧 (2012年1月～2012年12月)

2012年(平成24年)は以下の活動に取組み、その成果を国内外に広く普及致しました。

2012年(1月～12月)の主なJRRN活動実績一覧

月 日	活動の種類	活動内容	開催場所
1月5日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年1月号(Vol.55) 発行	-
1月6日	会員交流	JRRN の Facebook サイト 開設	-
1月24日	調査研究	「第3回 JRRN 会員向けアンケート調査 (Web版・川の通信簿)」実施	-
1月26日	出版	「第8回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム講演録」(英語版)発行	-
1月30日	出版	「第9回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録～中国の河川生態系」発行	-
1月31日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年2月号(Vol.56) 発行	-
2月28日	調査研究・出版	「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」(日本語版) 発行	-
3月1日	情報発信	「JRRN 年次報告 2011」 発行	-
3月2日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年3月号(Vol.57) 発行	-
3月8日	国際交流	「台湾高雄市視察団」現地視察支援	日本(横浜)
3月9日	国際交流	「韓国未来資源研究院」技術交流	日本(東京)
3月12日	調査研究・出版	「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」(英語版) 発行	-
4月2日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年4月号(Vol.58) 発行	-
4月16日	情報共有基盤整備	JRRN ウェブサイト リニューアル	-
5月1日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年5月号(Vol.59) 発行	-
5月30日～ 6月1日	国際交流	「第1回フィリピン国際河川サミット」 参加	フィリピン (イロイロ)
6月5日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年6月号(Vol.60) 発行	-
6月20日	出版	「桜のある水辺風景 2012 写真集」 発行	-
7月2日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年7月号(Vol.61) 発行	-
8月2日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年8月号(Vol.62) 発行	-
8月23日	出版	「第1回フィリピン国際河川サミット (2012.5.30-6.1)参加報告」 発行	-
8月31日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年9月号(Vol.63) 発行	-
9月6日	国際交流	「マレーシア河川フォーラム 2012」 参加・講演	マレーシア (ブトラジャヤ)
9月21日	出版	「マレーシア河川フォーラム 2012 (2012.9.6)参加報告」 発行	-
10月1日	情報発信	JRRN ニュースメール 500号 達成	-
10月2日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年10月号(Vol.64) 発行	-
10月2日	調査研究	「第4回 JRRN 会員向けアンケート調査 (河川再生手引き ver.2)」実施	-
10月8日～ 10月10日	国際交流	「第15回国際河川シンポジウム」 参加・講演	オーストラリア (メルボルン)
11月5日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年11月号(Vol.65) 発行	-
11月21日	調査研究・出版	「PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き」 発行	-
11月24日	組織運営	「第7回 ARRN 運営会議」開催・ARRN 事務局移管 (JRRN→CRRN)	中国(北京)
11月24日	情報交換・交流	「第9回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」 開催	中国(北京)
11月27日	国際交流	「JICA 草の根技術協力・フィリピン共和国イロイロ市におけるコミュニティ防災推進事業」研修支援	日本(東京)
12月1日	会員交流	「市民による河川環境の見かた・調べかた～英国 PRAGMO に学ぶ」開催	日本(東京)
12月6日	情報発信	JRRN ニュースレター 2012年12月号(Vol.66) 発行	-
12月13日	国際交流	「マレーシア天然資源環境省排水灌漑局(DID)視察団」技術交流	日本(東京)

情報共有基盤整備（ウェブサイト）

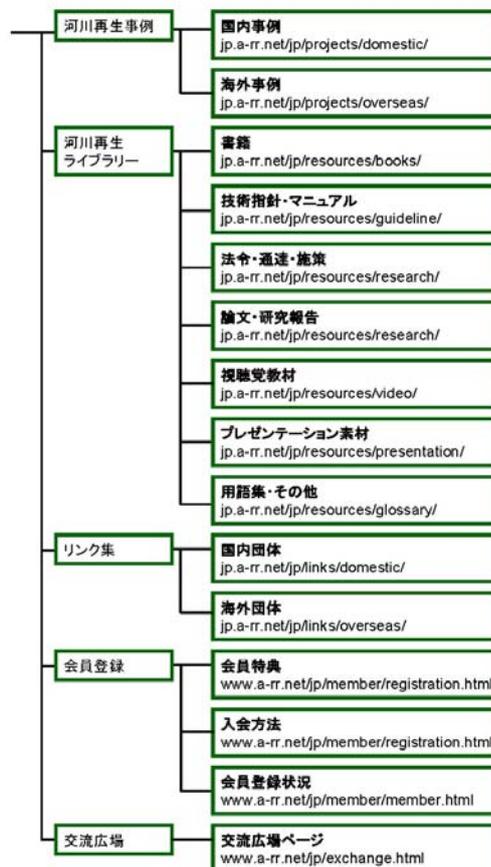
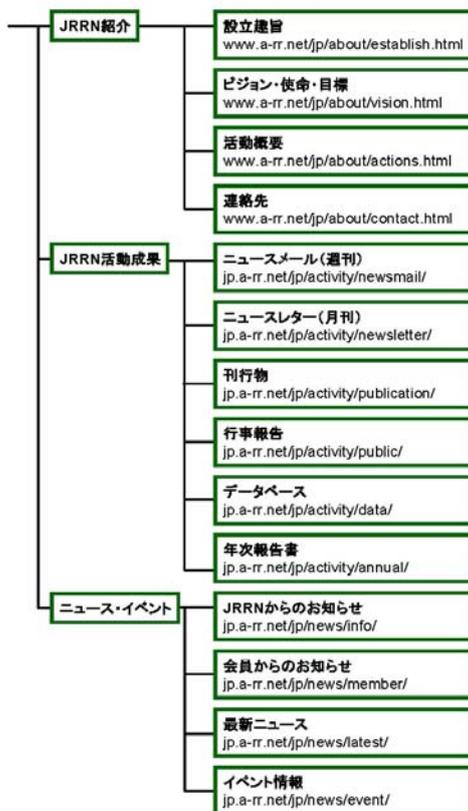
JRRN では、河川再生に取り組む人々が、日頃の活動に必要な情報に容易にアクセスでき、また相互に役立つ情報を提供・交換できる仕組みづくりを目指し、JRRN ウェブサイトの充実に取り組んでいます。

2012年4月には、会員皆様のご意見を踏まえ、2007年8月に開設したJRRN ウェブサイトを約4年半ぶりにリニューアルし、河川再生情報源に相応しいユーザー利便性の改善、及びJRRN 会員相互交流機能の強化に重点的に取り組みました。

また、JRRN は、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の設立以降、ARRN ウェブサイトの運営管理を担っております。2012年11月のARRN 事務局の中国(CRRN)移管以降も、引き続きJRRN がARRN ウェブサイトの運営担当として、アジアでNo.1の河川再生分野の情報媒体を目標にARRN ウェブサイトの充実化を図って参ります。



URL: <http://www.a-rr.net/jp/>



リニューアル後のJRRN ウェブサイト構成 (2012年4月～)

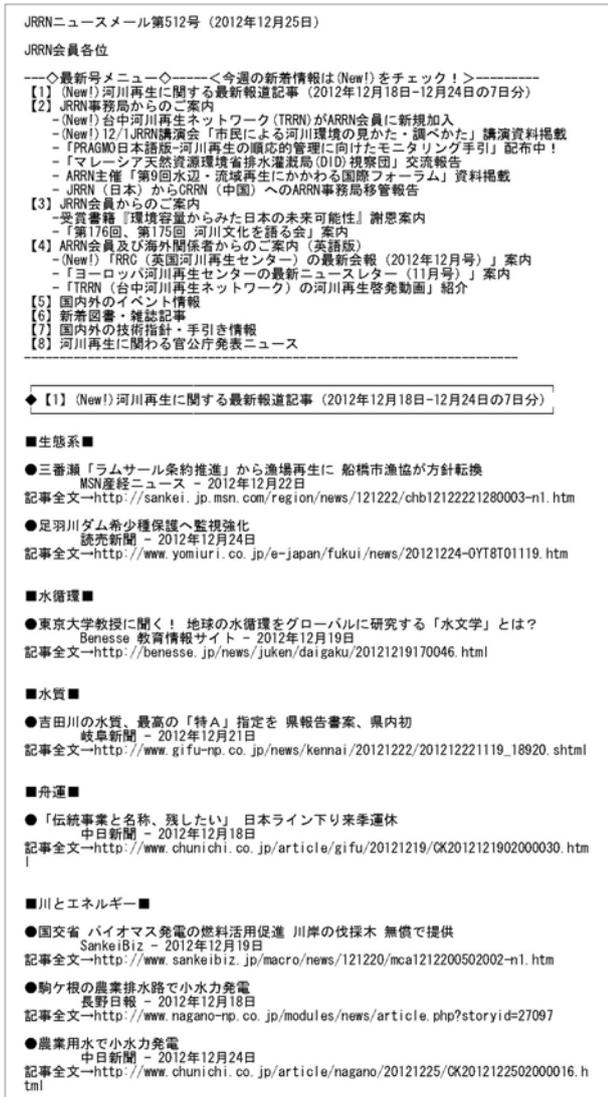
情報発信（ニュースメール・ニュースレター）

JRRN ニュースメール

JRRN ニュースメールは、毎週 1 回、JRRN 会員に向けて発行し、2012 年は計 51 回配信しました。

主なコンテンツは、国内外の河川再生に関連する報道ニュース、JRRN 活動報告、JRRN 会員からの提供情報、ARRN 及び海外関係者からの提供情報、国内イベントや新刊書籍情報などで構成されます。

なお、すべてのバックナンバーは JRRN ウェブサイトで閲覧することが可能です。



JRRN ニュースメールのサンプル（抜粋）

JRRN ニュースメール バックナンバーURL:  
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/newsmail/>

JRRN ニュースレター

過去 1 ヶ月間の JRRN 活動概要、JRRN 会員からの提供情報や寄稿記事、JRRN が取り組む調査研究活動の紹介、また今後開催される河川再生関連行事等を取りまとめ、JRRN ニュースレターとして月 1 回の頻度で配信しています。（2012 年：計 12 回）

すべてのバックナンバーは JRRN ウェブサイトで閲覧することが可能です。



JRRN ニュースレターのサンプル（抜粋）

- 2012 年（1 月号～12 月号） 寄稿記事タイトル一覧
- ・【連載】水辺からのメッセージ（No.32～43）  
 （岡村幸二様・国土文化研究所特任研究员）
  - ・【連載】川系男子の『川と人』めぐり（No.1～8）  
 （坂本貴啓・筑波大学大学院 生命環境科学研究所 博士前期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ）
  - ・愛媛県 多自然川づくりと地域住民との合意形成【vol.55】  
 （藤原美紀様・鞍瀬塾事務局）
  - ・「韓国抱川市主催 漢灘江汜濫活用セミナー」参加【vol. 57】  
 （伊藤一正様・ARRN 情報委員/株式会社建設技術研究所）
  - ・WEB 版「川の通信簿」試行結果の報告【vol. 58】  
 （「川の通信簿」事務局）
  - ・巡回企画展「ゲリラ豪雨に備える」～ 4 月 21 日（土）から 5 月 27 日（日）まで「龍 Q 館」にて開催中【vol. 59】  
 （吉富友恭・東京学芸大学准教授、水の巡回展ネットワーク代表）
  - ・国際河川シンポジウム（IRS）のご案内【vol. 61】  
 （都筑良明・島根大学汽水域研究センター 協力研究员）
  - ・スイスの川と水河を訪ねて(2012 年 7 月)【vol. 62】  
 （横田潤一郎・公益財団法人リバーフロント研究所）
  - ・生態水工学国際シンポジウム参加報告【vol. 64】  
 （篠崎由依・株式会社建設技研インターナショナル）
  - ・北京でのインターンシップ報告【vol. 65】  
 （内田考洋・名古屋大学大学院社会基盤工学専攻水工学講座 博士課程 前期課程）
  - ・「平成 24 年度多自然川づくり研修会」報告～愛媛県 地域の宝「アサザ」が結ぶ住民と行政【vol. 65】  
 （藤原美紀様・鞍瀬塾事務局）
  - ・第 15 回国際河川シンポジウム（豪州・メルボルン）「Yarra 川スタディー・ツアー」参加報告【vol. 65】  
 （都筑良明・島根大学汽水域研究センター 協力研究员）

JRRN ニュースレター バックナンバーURL:  
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/newsletter/>

会員交流（JRRN 主催行事等）

河川再生に関わる国内外の最新の知見の共有ならびに専門家と JRRN 会員との交流促進を目的に、講演会『市民による河川環境の見かた・調べかた～英国 PRAGMO に学ぶ～』を 2012 年 12 月に開催しました。

また、会員相互交流機能としてソーシャル・ネットワークワーキング・サービスの Facebook を 2012 年より試験的に導入しました。

講演会『市民による河川環境の見かた・調べかた～英国「PRAGMO」に学ぶ～』（2012 年 12 月 1 日：東京）

本講演会は、PRAGMO 日本語翻訳版の国内普及および今後の活用方策を議論することを目的に開催しました。

講演では、はじめに英国河川再生センター(RRC)の PRAGMO 作成総括責任者であるジェニー・マント博士より PRAGMO 作成経緯や特徴などをご講演頂き、続いて荒川流域ネットワークの恵小百合代表より、日本における河川再生モニタリング活動の実践に関わる講演を頂戴しました。その後、市民主体のモニタリング活動推進に向けた課題や今後の展望について、PRAGMO 日本語翻訳版監修を務めた白川直樹筑波大学准教授 (ARRN 技術委員) の進行により、講演者を含む有識者及び会場を交えた活発な議論を行いました。(平成 24 年度河川整備基金助成事業)

**「市民による河川環境の見かた・調べかた  
～英国「PRAGMO」に学ぶ～」開催のご案内**

地域が主体となった河川の効果的かつ持続的な再生のために、河川の特徴や課題に応じた再生及び活動の目標設定と河川の状態や自然環境を把握するための適切な環境調査(モニタリング)が重要です。

河川再生の分野で先進的な活動を展開する英国では、英国河川再生センター (the River Restoration Centre) により、市民のための河川環境調査手引きとして「PRAGMO: Practical River Restoration Appraisal Guidance for Monitoring Options」が 2011 年 11 月に作成・公開されました。本講演会は、英国における河川再生の取り組みを英国河川再生センターのジェニー・マント博士にご教授いただくとともに、日本国内における活動事例を紹介し、地域主体の河川環境の見かた・調べかたの理解を深めていくものです。

1. 日 時： 2012 年 12 月 1 日 (土) 13:30～17:00
2. 場 所： 発明会館ホール (東京都港区虎ノ門 2-9-14)
3. 内 容：
  - 13:30～13:35 開会挨拶 佐倉 純造 (日本河川・流域再生ネットワーク事務局長)
  - 13:35～13:40 英国の河川環境調査手引き「PRAGMO」の紹介 日本河川・流域再生ネットワーク事務局
  - 13:40～14:40 基調講演 1: 「PRAGMO」作成の背景と主な特徴、その活用について ジェニー・マント (英国河川再生センター 科学・技術マネージャー)
  - 14:40～15:10 基調講演 2: 荒川における河川再生の取り組み 恵 小百合 (荒川流域ネットワーク 代表)
  - 15:10～15:25 休憩
  - 15:25～16:55 総合討論: 市民による河川環境調査の更なる推進に向けて何が必要か  
座 長: 白川 直樹 (筑波大学 准教授 / ARRN 技術委員)  
パネラー: ジェニー・マント (英国河川再生センター 科学・技術マネージャー)  
恵 小百合 (荒川流域ネットワーク 代表)  
山道 晋三 (NPO 法人全国水環境協会 代表)  
藤井 政人 (国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 河川環境保全調整官)
4. 定 員： 200名 参加費無料
5. 通 訳： 日英逐次通訳
6. 申込方法： 以下の情報をご記入の上、E-mail 又は FAX にてお申し込み下さい。  
【E-mail: [j-event@rrf.or.jp](mailto:j-event@rrf.or.jp) Fax: 03-3523-0640】
  - ① 氏名 (ふりがな)、所属
  - ② 会員種別 (JRRN 会員 / 非会員)
  - ③ 連絡先 (e-mail、電話番号)
  - ④ 懇親会への参加の有無
7. 主 催： 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)、Asian River Restoration Network (ARRN)、公益財団法人リバーフロント研究所
8. 後 援： 英国河川再生センター (the River Restoration Centre)
9. 特 典： 本行事へ参加された皆様に PRAGMO (日本語翻訳版) を贈呈させていただきます。

【開催事務局・問い合わせ先】  
日本河川・流域再生ネットワーク事務局 (伊藤 智文、後藤 勝洋)  
E-mail: [info@arr-net.jp](mailto:info@arr-net.jp)

この講演会は、財団法人河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。

本講演行事の開催報告ページ (講演資料・講演録等) :

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/164>

会員相互交流機能として JRRN の Facebook サイトの運用開始 (2012 年 1 月 6 日～)

ウェブサイトへの蓄積情報やニュースメール等による新規情報伝達と連動させる形で Facebook を運用し、今後は会員双方向での交流を目指してまいります。



URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/151.html>



基調講演 1  
(ジェニー・マント講師)

基調講演 2  
(恵小百合講師)

総合討論の様子

## 国際交流（研修受入、技術交流支援等）

JRRN では、河川再生に関わる日本が培った知見を海外に普及することを目的として、海外技術研修への協力、海外視察団と国内行政機関との技術交流支援、国際行事参加などに 2012 年も取組みました。

### 「台湾高雄市視察団」現地視察支援（2012 年 3 月 8 日）



開会挨拶（京浜河川事務所長）



鶴見川流域センター展示室の説明



多目的遊水地の見学



記念撮影

総合治水対策や地域住民協働の河川管理に関わる日本の先進的取組みの視察を目的に、台湾高雄市の市長を団長とする視察団（約 35 名）が鶴見川流域センターを訪問しました。鶴見川を管理する国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所による詳しい取組の説明や活発な意見交換が行われ、本視察に際し、JRRN が高雄市及び視察受入先との調整役を担いました。

### 「韓国未来資源研究院」技術交流（2012 年 3 月 9 日）



技術交流の様子

韓国の民間シンクタンク「未来資源研究院」所属の研究員 2 名が来日し、河川再生全般に関わる法制度や施策の変遷等について JRRN 事務局と意見交換しました。

### 「第 1 回フィリピン国際河川サミット」参加 （2012 年 5 月 30 日～6 月 1 日）



サミット会場の様子

フィリピン・イロイロ市において「第 1 回フィリピン国際河川サミット」が開催され、河川改善に関わるフィリピン国内の地方自治体職員や NGO、実務者、また海外からの参加者約 80 名を含む約 1,200 人が集いました。JRRN 事務局からも 1 名が参加し、JRRN 及び ARRN の広報や参加者との交流を行いました。

本行事の参加報告ページ（参加報告書等）：

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/131>

### 「マレーシア河川フォーラム 2012」参加・講演 （2012 年 9 月 6 日）



講師陣による記念撮影（左から 2 番目が川崎講師）

マレーシア河川フォーラムにおいて、「日本の河川再生における住民参加」という演題で JRRN 会員・川崎秀明氏（前・マレーシア国 JICA 専門家、前・山口大学教授）が講演を行い、JRRN 事務局員 1 名も同行し JRRN 及び ARRN 広報を通じた技術交流を行いました。

本行事の参加報告ページ（講演資料・参加報告書等）：

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/140>

「第 15 回国際河川シンポジウム」参加・講演  
(2012 年 10 月 8 日～10 日)



開会式の様子

第 15 回国際河川シンポジウムが「急速に都市化する中での河川」を主テーマにオーストラリア国メルボルンにて開催され、JRRN 事務局より「日本における河川再生事業の成功要因分析」と題する発表を行うとともに、JRRN 及び ARRN の更なる拡大に向けた河川再生分野の海外関係機関との技術交流を行いました。

ARRN 主催「第 9 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」参加・講演 (2012 年 11 月 24 日)



JRRN による講演の様子

「第 9 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」が『都市流域圏の包括的取組と統合的管理』をテーマに中国水利水電科学研究院（北京市）にて開催され、JRRN 事務局より「日本における都市河川管理」と題する講演を行うとともに、日本・韓国・中国の河川実務者・研究者との技術交流を行いました。

※本行事の詳細は本冊子 P12 でも記載しております。

本行事の参加報告ページ（講演資料、概要報告等）：

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/156>

「JICA 草の根技術協力・フィリピン共和国イロイロ市におけるコミュニティ防災推進事業」研修支援  
(2012 年 11 月 27 日)



午前の講義の様子



午後の旧中川視察

CITYNET（アジア太平洋都市間協力ネットワーク）及び横浜市が実施する JICA 草の根技術協力「フィリピン共和国イロイロ市におけるコミュニティ防災推進事業」に関わる研修行事が日本で開催され、JRRN 事務局が研修の一部を担いました。

「マレーシア天然資源環境省排水灌漑局(DID)視察団」技術交流 (2012 年 12 月 13 日)



技術交流会の様子

日本における河川再生の事例、特に地域と行政が連携した川づくりに関わる取組の視察及び意見交換を目的に、マレーシア天然資源環境省排水灌漑局(DID)の副局長を団長とする視察団（約 25 名）が来日し、JRRN 事務局と技術交流会を行いました。

## 調査研究

JRRN では、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的とした調査研究を実施しております。2012 年は、英国河川再生センター（RRC）より発行された河川再生の順応的管理のためのモニタリング手引き「PRAGMO」の日本語版作成に取り組みました。

またアンケートを通じた会員評価を実施しながら、JRRN 諸活動の更なる質の向上に努めております。

### PRAGMO 日本語版の作成（2012 年 6 月～12 月）

2007 年より JRRN と交流を進めてきた英国河川再生センター(RRC: River Restoration Centre)より、河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングに関わるガイドライン（PRAGMO）が 2011 年 11 月に発行されました。

このガイドラインは、非専門家向けに河川再生の意義や再生の目標設定、また水理・水文データや生物環境の詳しい調査方法について分かりやすく解説したもので、モニタリングを実施しながら河川再生事業の評価を行い、よりよい方向に事業を軌道修正する順応的管理の考え方を前提に、簡単にできるモニタリングから高い専門性を要するモニタリングまで分かりやすく解説されているのが特徴です。

JRRN では、英国河川再生センターの協力を得て PRAGMO 日本語翻訳版を作成し、その普及を通じ河川再生の順応的管理に向けた基本概念や具体手法を国内に紹介しました。

なお、日本語への翻訳作業は JRRN 会員ボランティアが、編集及び索引作成は JRRN 団体会員である筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ学生チームが、また日本語版監修は ARRN 技術委員の日本委員を務める白川直樹・筑波大学准教授に担って頂き、JRRN 会員協働活動による成果として、PRAGMO 日本語版が完成しました。



『川と人』ゼミチームによる編集作業



- 冊子名：「PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き」
  - 原著者：英国河川再生センター(RRC)
  - 発行：JRRN、ARRN
  - 監修：白川直樹 筑波大学システム情報系准教授
  - 翻訳：JRRN 会員ボランティア(10 名)・JRRN 事務局
  - 編集：筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ
  - 発行年月日：2012 年 11 月 21 日（水）
- ※本書は、河川整備基金の助成を得て作成しました。

PRAGMO 日本語版の発刊案内ページ：

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/212.html>

### 会員アンケート調査による JRRN 活動評価（第 3 回：2012 年 1 月実施、第 4 回：2012 年 10 月実施）

2012 年 1 月 23 日～2 月 10 日にかけて、河川空間情報共有サイト『Web 版「川の通信簿」』に関わる JRRN 会員へのアンケート依頼を受け、多くの会員皆様にご協力を頂き、その結果を JRRN ニュースレター 2012 年 4 月号でご報告しました。本調査では、河川環境情報に関わるニーズも確認でき、今後の JRRN 活動へも反映して参ります。

また、2012 年 10 月 2 日～12 日にかけては、河川再生に関わる技術指針類の充実化を目的に「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」に関するアンケート調査を行い、15 名の方々より貴重なご意見を頂きました。本アンケートで頂いたご意見は、JRRN が ARRN とともに進める河川再生に関わる技術整備に向けた諸活動に活用してまいります。

出版

JRRN の活動成果を蓄積し、広く国内外に活用頂くことを目的として、交流行事や調査研究の成果をweb 版冊子として取りまとめ、JRRN ウェブサイトを通じて普及する取組みを行いました。

2012 年 JRRN 刊行物ラインアップ

■ 第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム講演録(英語)

2011 年 11 月 11 日(金)に開催しましたARRN/JRRN 主催「第 8 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」の講演と質疑応答の様子を講演録として取りまとめ、広く普及を図りました。(2011.12.28 日本語版発行、2012.1.26 英語版発行)



■ 桜のある水辺風景 2012 写真集

JRRN 会員の方々よりご応募(17 名より 41 作品)頂きました2012 年の桜の水辺写真をとりまとめた桜の水辺風景写真集を発行しました。(2012.6.20 発行)



■ JRRN 河川環境ミニ講座 講演録

「第 9 回 JRRN 河川環境ミニ講座～中国における河川生態系の変化と自然再生の動向」の講演と質疑応答の様子を講演録として取りまとめ、JRRN ウェブサイトを通じ公開しました。(2012.1.30 発行)



■ 河川再生に関わる国際会議 参加報告書

JRRN による国際交流活動成果の日本国内への紹介を目的に、「第 1 回フィリピン国際河川サミット」(2012 年 5 月開催)及び「マレーシア河川フォーラム 2012」(2012 年 9 月開催)の行事参加報告書として取りまとめ、JRRN ウェブサイトを通じ公開しました。(2012.8.23 フィリピン報告発行、2012.9.28 マレーシア報告発行)



■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2 (日・英)

2009 年 3 月の初版(ver.1)発行以降、ARRN を構成する日本・中国・韓国の関係者で検討を重ねてきました「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」を発行し、電子版を JRRN ウェブサイトに公開しました。(2012.2.24 日本語版発行、2012.3.12 英語版発行)



■ PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き

英国河川再生センター(RRC)、JRRN 会員、及び筑波大学白川(直)研究室の協力を得て作成した「PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き」を発刊し、広く普及を図りました。(2012.11.21 発行)



JRRN 刊行物紹介ページ: <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

# ARRN(アジア河川・流域再生ネットワーク)活動報告 2012



## ARRN 概要紹介

### ARRN 設立の経緯

2006年3月にメキシコシティで開催された「第4回世界水フォーラム」の自然再生に関する日本、中国及び韓国3ヶ国合同分科会において、河川・流域再生の情報交換ネットワークやデータベースの構築、及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生ガイドライン（技術指針）の作成に向けたアジア諸国連携の必要性が提唱されました。この合同分科会での提言を引き継ぐ形で、2006年11月に東京で開催された『第3回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』の場で、「アジア河川・流域再生ネットワーク」(ARRN: Asian River Restoration Network)が日中韓の関係機関をメンバーとして設立されました。



ARRN 設立式典の様子

ARRN 設立経緯の詳細紹介ページ:

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/6>

### ARRN の目的

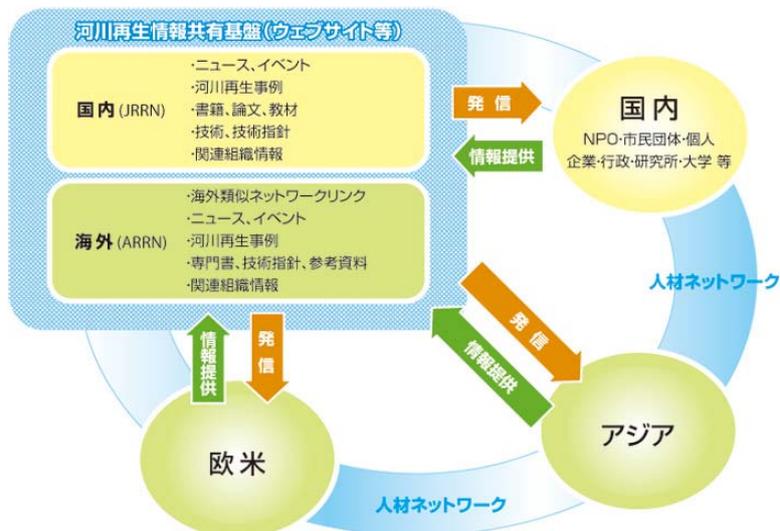
ARRN は、非政府組織としての中立の立場で、以下の二つを主な目的に、アジアの豊かな水環境の創造に寄与することを旨として活動しています。

- ウェブサイトやイベント開催を通じ、アジア地域をはじめ世界各国の河川・水辺の再生に関する事例・情報・技術・経験等を、技術者・研究者・生態学者・行政担当者、そして市民で交換・共有する仕組みを構築すること。
- 類似した社会・自然環境を有するアジア・モンスーン地域で利用できる河川再生ガイドラインを構築し、ネットワーク参加者の知識・技術の向上を図ること。

### ARRN の活動内容

ARRN は、河川・流域再生をテーマに以下の活動を行っています。

- 関連情報のウェブサイトやニュースレター等による普及
- 国際フォーラムやワークショップの開催
- ガイドラインの作成・普及
- 各国・地域内ネットワーク間での講師・専門家派遣、現地視察企画等の支援
- 調査研究・出版・広報活動等



ARRN の活動全体イメージ

**ARRN 組織体制**

**河川・流域再生ネットワーク (River Restoration Network)**

ARRN は参加各国・地域のネットワークの連携で組織され、それら国・地域レベルのローカルネットワークを「River Restoration Network メンバー (以下、RRN)」と総称します。各河川・流域再生ネットワークは各国・地域内での自由な活動が奨励されています。

**個別組織会員 (Non-RRN)**

ネットワークを形成せず、個別団体・個人として、ARRN 主催行事への参加やホームページの利活用、また ARRN への情報提供や ARRN 発刊物の共同制作等を担う者を「Non-RRN メンバー」と総称します。

**運営会議 (Governing Council)**

ARRN の運営方針は各国 RRN の代表者よりなる「運営会議」にて決定されます。運営会議は、会議で承認された議長 (会長) により総括され、ARRN の年間活動計画等の決議を行います。各 RRN 代表者は運営会議の議員となり、参加国の全議員より「Governing Council」が構成されます。

**常設委員会 (Committee)**

ARRN の将来ビジョン、活動内容、情報共有基盤の整備方策等を定めることを目的に情報委員会が、またアジアの国々に適したガイドラインをはじめとする河川・流域再生のための技術方策を提示することを目的とした技術委員会が設置されています。

**事務局 (Secretariat)**

運営会議は「事務局」により開催され、事務局はこのほか、ARRN の活動を遂行します。2012 年 12 月現在、CRRN (中国河川・流域再生ネットワーク) が ARRN 事務局を担っています。

**ARRN 会員(2012 年 12 月現在)**

現在、河川・流域再生ネットワークとして 4 団体、また組織会員として 5 団体で構成されています。

**河川・流域再生ネットワーク (River Restoration Network)**

**【各国ローカルネットワーク会員(National RRN)】**

●日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)  
 【事務局】(公財)リバーフロント研究所  
 【会員】 個人：約 590 人、団体：約 50 組織

●韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)  
 【事務局】 韓国河川協会(KRA)

●中国河川・流域再生ネットワーク(CRRN)  
 【事務局】中国水利水電科学研究院

**【各地域ローカルネットワーク会員(Regional RRN)】**

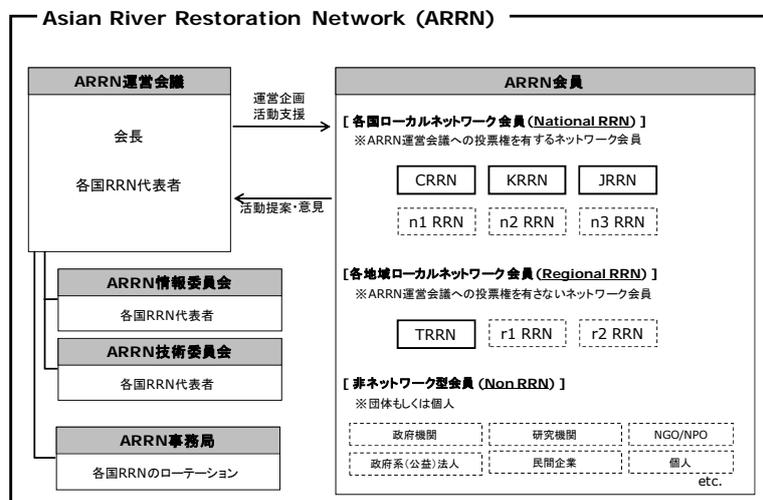
●台中河川・流域再生ネットワーク(TRRN)  
 【事務局】台湾經濟部水利署水利規劃試驗所(WRAP)

**個別組織会員 (Non-RRN)**

- ・タイ天然資源環境省水資源局
- ・パキスタン連邦洪水委員会(FFC)
- ・オーストラリア河川再生センター(ARCC)
- ・マレーシア地球環境センター(GEC)
- ・インド Terracon Ecotech Pvt. Ltd.,

ARRN 団体会員一覧ページ:

<http://jp.a-rr.net/jp/links/overseas/29.html>



ARRN の新組織図 (2012 年 11 月～)

## 情報交換・交流（国際フォーラム等）

### 第9回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム （2012年11月24日：中国・北京）

河川再生に関わる諸外国の専門知識の交換と人的交流を目的として、2012年11月24日（土）に『第9回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム～都市流域圏の包括的取組と統合的管理』を、4年ぶりに中国・北京にて開催しました。



新 ARRN 事務局長による開会挨拶



会場の様子

#### 第9回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム

- 日時：2012年11月24日（土） 14:00～17:00
- 会場：中国水利水電科学研究院
- 主催：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）、中国河川・流域再生ネットワーク（CRRN）
- ・開会挨拶：Wenxue CHEN 氏（新 ARRN 事務局長）
- ・講演1：生態水工学と生態的堆積作用に関わる課題と研究  
Zhaoyin WANG（中国清華大学/IAHR 副会長）
- ・講演2：日本における都市河川管理  
伊藤将文（JRRN 事務局/（公財）リバーフロント研究所）
- ・講演3：韓国における統合的な水循環管理システム  
Jin Cheol JOO（韓国建設技術研究院）
- ・講演4：永定河の統合的河川再生  
Chengdong ZHU（北京市水利規劃設計研究院）
- ・講演5：仁川広域市 Cheongra における人造湖の水理解析  
Sukhwan JANG（KRRN 事務局長/韓国大真大学教授）

第9回 ARRN 国際フォーラム報告ページ:

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/156>

### 中国・永定河における河川再生技術交流会 （2012年11月25日：北京市郊外・永定河）

「第9回水辺・流域にかかわる国際フォーラム」の講演者及び ARRN 関係者が中国・北京市郊外を流れる永定河を訪れ、河川の流量及び水質改善の取組みや川沿いの親水整備、さらに周辺地域の開発について、河川管理者の案内による視察と技術交流を行いました。



永定河における技術交流会の様子

#### ECRR, RRC, IRF 等との相互交流

ARRN では、海外の河川再生ネットワークとも国際会議やメール等での情報交換を通じて交流を深め、河川・流域再生に関わる最新情報の相互共有を図っております。ARRN 会員以外で、以下の河川再生ネットワーク事務局との継続的情報交流を進めています。



ヨーロッパ河川再生センター(ECRR)



the River Restoration Centre  
Working to restore and enhance our rivers

イギリス河川再生センター(RCC)



オーストラリア・国際河川財団(IRF)

## 【ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 第1回～第9回講演タイトル一覧】



## ■ 第1回フォーラム (2005年1月19日 東京)

- 【講演1】 韓国・清溪川再生事業における水文学的考察 (韓国・建設技術研究院 KICT Dr. Sung Kim)
- 【講演2】 都市河川における浄化と美化：シンガポールの経験 (シンガポール貿易省電気水道局 Mr. Yap Kheng Guan 他)
- 【講演3】 中国・蘇州河再生事業の紹介 (中国・上海蘇州河環境整備事業団本社 Dr. Ming Hua)
- 【講演4】 チェサピーク湾再生への歩み (米国・メリーランド州天然資源省 Dr. C Ronald Franks)
- 【講演5】 流域連携による河川再生：イギリス・マーヅ川流域キャンペーン (英国・マーヅ川流域キャンペーン Mr. Mark Turner)
- 【講演6】 ヨーロッパ河川再生センター ー環境、経済、文化の持続可能なバランスに向けて (ECRR Ms. Ute Menke)

## ■ 第2回フォーラム (2005年10月27日 東京)

- 【講演1】 中国・漢ロリバーフロント総合的洪水予防と環境改善と再生事業 (中国・武漢市水務局 Dr. Jiang TieBing)
- 【講演2】 フィリピン・パシグ川マスタープラン (フィリピン・パシグ川再生委員会 Dr. Bingle H. B. Gutierrez)
- 【講演3】 米国・包括的エバークレス再生プログラム (米国・南フロリダ水管理局 Mr. Paul A. Warner)
- 【講演4】 イタリアにおける河川再生における課題と今後の展開 (イタリア河川再生センター Mr. Giuseppe Dodaro)
- 【講演5】 マレーシアとインドネシアにおける河川流域イニシアティブの取組み (マレーシア・地球環境センター Mr. Faizal Parish)
- 【講演6】 韓国における河川復元の事例 (韓国・建設技術研究院 KICT Dr. Hong-Kyu Ahn)

## ■ 第3回フォーラム (2006年11月9日 東京)

- 【講演1】 ヨーロッパの情報交換ネットワークの活用と河川政策の今 (フィンランド環境研究所 Mr. Jukka Jormola)
- 【講演2】 三峡ダム事業向上のための環境に配慮した水文学的、水力学的研究調査プロジェクト (中国・IWHR Dr. Wen Gen Liao)
- 【講演3】 韓国の河川再生について (韓国・建設技術研究院 KICT Dr. Chang Wan Kim)
- 【講演4】 日本の河川再生について (国土交通省河川局河川環境課 原田昌直)
- 【講演5】 マレーシアにおける河川再生 (マレーシア・灌漑排水局河川部 Ir. Weng Keong Cho)

## ■ 第4回フォーラム (2007年11月30日 東京)

- 【講演1】 隅田川を中心とした河川再生 (東京都建設局 長島修一)
- 【講演2】 韓国の河川再生プロジェクト (韓国・建設交通部河川計画課 Mr. Sukhyun Kim)
- 【講演3】 中国・長江における“四大家魚”の産卵環境再生について (中国・水利水電科学研究院 IWHR Dr. Wen Gen Liao)
- 【講演4】 タイの河川・湿地再生に関する取組み (タイ・天然資源環境省 Mr. Surapol Pattanee)
- 【講演5】 ヨーロッパの河川再生に向けた政策と情報交換 (イギリス河川再生センター Mr. Martin Janes)

## ■ 第5回フォーラム (2008年11月4日 中国・北京)

- 【講演1】 河川環境改善に向けた生物・非生物的要因の関係分析～韓国京畿地方の事例 (韓国・KICT Dr. Chang Wan Kim)
- 【講演2】 河川・流域再生における自然共生型環境管理技術開発について～伊勢湾流域圏での取組み (名古屋大学 戸田祐嗣)
- 【講演3】 河川再生の理論と実践 (中国・水利水電科学研究院 Prof. Dong Zheren)
- 【講演4】 中国における河川整備と再生 (中国・清華大学水理科学・技術研究所 Prof. Wang Zhaoyin)
- 【講演5】 三峡プロジェクト運営管理における生態系が必要とする条件 (中国科学院水資源省 Prof. Chang Jianbo)

## ■ 第6回フォーラム (2009年9月29日 韓国・ソウル)

- 【講演1】 川に流れを取り戻す ～日本における過去・現在・未来 (筑波大学 白川直樹)
- 【講演2】 中国における河川再生の最新の取組み (中国・水利水電科学研究院 IWHR Dr. Dongya Sun)
- 【講演3】 河川工学と管理 ～スイスにおける事例から (スイス・Canton Thurgau Dr. Marco Baumann)
- 【講演4】 韓国4大河川再生事業の基本計画づくりについて (韓国・建設技術研究院 KICT Dr. Hong Koo Yeo)

## ■ 第7回フォーラム (2010年9月14日 韓国・ソウル)

- 【講演1】 ヨーロッパにおける河川再生と ECRR (ヨーロッパ河川再生センター Dr. Bart Fokkens)
- 【講演2】 黄河デルタにおける環境流量と生態再生の実践 (中国・黄河水資源保護科学院 Dr. Xingong Wang)
- 【講演3】 GISと野生動物自動追尾システムを用いた Individual Based Model の改良 (土木研究所 傳田正利)
- 【講演4】 韓国における水圏生態再生のための技術の発展について (韓国・Eco STAR Project Dr. Sunok Jeon)
- 【講演5】 生態的都市河川再生のための意思決定システムモデル (韓国・建設技術研究院 KICT Dr. Weon Jae Kim)

## ■ 第8回フォーラム (2011年11月11日 東京)

- 【講演1】 2011年ブリスベン川洪水被害対応及び豪州政府が取組む河川・湿地管理と再生 (豪国・国家水管理局 Mr. Alastair Mcharg)
- 【講演2】 台湾における最近の都市河川再生の取組み (台湾・逢甲大学 Prof. Shaohua Marko Hsu)
- 【講演3】 韓国水辺環境再生のための技術開発～連続ブロックシステム事例 (KRRN 事務局長/韓国・大真大学教授 Prof. Sukhwan Jang)
- 【講演4】 汾河における河川再生～洪水防御と生態復元に向けた氾濫原の再生 (中国・北京師範大学教授 Prof. Aizhong Ding)
- 【講演5】 流域治水～樋井川からのイノベーション (九州大学大学院 島谷幸宏)

## ■ 第9回フォーラム (2012年11月24日 中国・北京)

- 【講演1】 生態水工学と生態的堆積作用に関わる課題と研究 (中国・清華大学教授 Prof. Zhaoyin Wang)
- 【講演2】 日本における都市河川管理 (JRRN 事務局/公益財団法人リバーフロント研究所 伊藤将文)
- 【講演3】 韓国における統合的な水循環管理システム (韓国建設技術研究院・Dr. Jin Cheol Joo)
- 【講演4】 永定河の統合的河川再生 (中国・北京市水利規劃設計研究院 Mr. Chengdong Zhu)
- 【講演5】 仁川広域市 Cheongra における人造湖の水理解析 (KRRN 事務局長/韓国・大真大学教授 Prof. Sukhwan Jang)



第1回フォーラム



第3回フォーラム



第5回フォーラム



第7回フォーラム

## 技術整備（河川再生ガイドライン構築）

ARRN では、河川再生の手引きの作成を活動目的の一つの柱と位置づけ、日本、中国、韓国の専門家による協議を重ねながら、良好なアジアの河川環境再生に貢献できる手引きとして、「アジアに適應した河川環境再生の手引き」の作成と継続的な更新を進めています。

### 【「アジアに適應した河川環境再生の手引き」更新履歴】

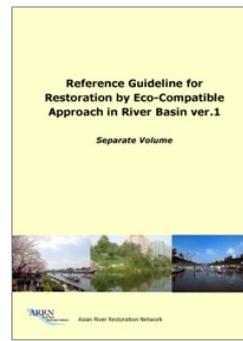
2009年3月	手引き ver.1	発行
2011年1月	手引き ver.1	別冊事例編 発行
2012年2月	手引き ver.2	(日本語版) 発行
2012年3月	手引き ver.2	(英語版) 発行

2011年から2012年にかけては、ARRN 技術委員会の指導のもと、2009年に発行した手引き ver.1 の更なる充実化を目指し、日本・中国・韓国の各ネットワークの共同作業により、ver.2 更新作業に取組みました。

### <ver.2 における更新内容>

- 河川再生に関する背景・経緯、課題及び対策をわかりやすく示した具体例を充実化。
- アジアの河川再生に関わる特徴の理解をより促すため、日本に偏らず、日本・中国・韓国等の写真を豊富に掲載。
- 欧米との比較からアジアの特徴を理解するため、欧米の河川再生に関わる情報源（ウェブサイト）を付録資料に掲載。

更新作業の成果として、2012年2月～3月に「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」（日本語版・英語版）を発行し、JRRN/ARRN ウェブサイト等を通じて国内外に普及を図っております。また、2013年3月現在、中国語版の作成をCRRN（中国河川・流域再生ネットワーク）が進めています。更に、手引き ver.2 に対するアンケート調査を実施し、利用者のご意見を踏まえ、更なる手引きの改善を目指してまいります。



手引き ver.1 別冊事例編



手引き ver.2 (日本語版)

<b>1. はじめに</b>	<b>1</b>
(1) なぜ河川環境の再生か？	1
(2) 手引きの目的	2
(3) 手引きの対象者	2
(4) 手引き作成の経緯と位置づけ	2
<b>2. 川の本質を知るために大切な視点</b>	<b>4</b>
(1) 川の自然・歴史・文化の変遷を熟知する	4
(2) 川を流域で捉える	6
(3) 川の流れの変動を知る	7
(4) 川の役割と地域の関係者を把握する	8
<b>3. 河川環境を再生する際の留意点</b>	<b>10</b>
(1) 川の特徴と課題を踏まえた再生目標を設定する	10
(2) 流域の視点から再生を計画する	21
(3) 川の流れの変動を踏まえた再生を考える	22
(4) 地域の関係者と連携して再生を進める	23
<b>4. 良好な河川環境を再生するための方策</b>	<b>24</b>
(1) 河川環境再生に向けた方策の概要	24
(2) 川の本質を見極めるための調査・研究	25
(3) 川に対する流域住民の意識形成	28
(4) 継続可能な活動とするための合意形成	30
(5) 健全な水質と水量の確保	32
(6) 賑わいのある水辺空間・親水空間の形成	35
(7) 川が本来持つ自然環境の再生	38
<b>5. 河川環境を再生した取組み</b>	<b>41</b>
(1) 中国における河川再生事例	41
(2) 韓国における河川再生事例	43
(3) 日本における河川再生事例	46
付録1. 既存の技術指針一覧（日本国内）	49
付録2. 河川再生の欧米情報源一覧	51

手引き ver.2 (日本語版) 目次

アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2 (日本語版) :

<http://jp.rrr.net/jp/news/info/177.html>

## ARRN河川・流域再生ガイドラインについて

### (1) 背景

ARRN設立の契機となった「第4回世界水フォーラム（2006年3月）」分科会において、アジアの河川・流域再生に関わる情報共有基盤整備と合わせ、河川・流域再生ガイドライン（技術指針）構築の必要性が提言された。

**“類似した自然・社会環境を保有するアジア・モンスーン地域として、河川環境再生のガイドラインを構築することが緊急の課題である。”**

この提言に基づき、ARRNが保有するネットワークを活用し“アジア河川・流域再生ガイドライン”の作成と更新及びその普及をARRN活動の機軸と位置づけ継続的に取組んでいる。

### (2) 目的

アジア・モンスーン地域に相応しい河川・流域再生の方法論の確立を目的とする。

### (3) 顧客・利用者

河川・流域再生活動に関わる一般市民（＝非専門家）を対象として作成する。

### (4) 言語

英語を言語としてアジア河川・流域再生ガイドラインを発行する。また、各RRNが、母国語（中国語・韓国語・日本語）への翻訳、及び本国での普及の責任を負う。

### (5) 作成担当

ARRN技術委員会監修の下で、ARRN事務局及び各RRN事務局が共同で実施する。

## 組織運営（運営会議・委員会活動）

### ARRN 運営会議及び委員メンバー(2012年12月現在)

#### ARRN

- ・会長： Zhiping Liu（中国水利水電科学研究院副院長）
- ・事務局長：Wenxue Chen（中国水利水電科学研究院IWHR）
- ・顧問： 玉井信行（東京大学名誉教授、前IAHR会長）

#### CRRN: 中国河川・流域再生ネットワーク

- ・会長： Xiaogang Wang（IWHR副院長）
- ・情報委員： Xiaosong Wang（IWHR）
- ・技術委員： Kewang Tang（IWHR）

#### KRRN: 韓国河川・流域再生ネットワーク

- ・会長： Bong Hee Lee（株式会社三安 Saman）
- ・情報委員： Jeong Seok Yang（国民大学）, Jin Chul Joo（韓国建設技術研究院 KICT）
- ・技術委員： Hyun Han Kwon（全北大学）, Moonhyeong Park（KICT）

#### JRRN: 日本河川・流域再生ネットワーク

- ・事務局長： 佐合純造（一般財団法人日本建設情報総合センター）
- ・情報委員： 伊藤一正（株式会社建設技術研究所）
- ・技術委員： 白川直樹（筑波大学）

### 各RRN事務局メンバー(2012年12月現在)

#### CRRN 事務局

<事務局長>

Baiyinbaoligao（中国水利水電科学研究院 IWHR）

<事務局員>

Xiaosong Wang（IWHR）

Jinyong Zhao（IWHR）

#### KRRN 事務局

<事務局長>

Suk Hwan Jang（韓国・大眞大学）

<事務局員>

Hong Koo Yeo（韓国建設技術研究院 KICT）

Jeong Seok Yang（国民大学）

Hong Kyu Ahn（KICT）

#### JRRN 事務局

<事務局長>

佐合純造（一般財団法人日本建設情報総合センター）

<事務局員>

柏木才助（公益財団法人リバーフロント研究所）

木村達司（株式会社建設技術研究所）

伊藤将文（公益財団法人リバーフロント研究所）

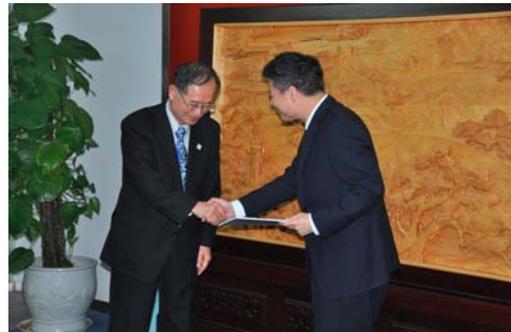
後藤勝洋（公益財団法人リバーフロント研究所）

和田 彰（株式会社建設技術研究所）

### 第7回ARRN運営会議(2012年11月24日:北京)

第7回ARRN運営会議が、中国水利水電科学研究院にて2012年11月24日(土)に開催されました。

本会議では、ARRN設立以降6年間の任期を務めたARRN会長(玉井信行東大名誉教授)及びARRN事務局(JRRN)から、新ARRN会長(Zhiping Liu中国水利水電科学研究院副院長)及び新ARRN事務局(CRRN:中国河川・流域再生ネットワーク)へと交代し、新体制によるARRNのスタートを切りました。



JRRN から CRRN への ARRN 事務局移管式



第7回ARRN運営会議後の記念撮影

「第7回ARRN運営会議」開催報告掲載ページ:

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/221.html>

### ARRN 情報委員会及び技術委員会

ARRNの二つの常設委員会について、2012年もe-mail形式による委員会協議を実施しました。

#### ARRN 情報委員会

情報委員会では、ARRN会員入会及びARRN事務局分掌に関わる内規制定、及び第7回運営会議の事前協議に関わる審議を行いました。

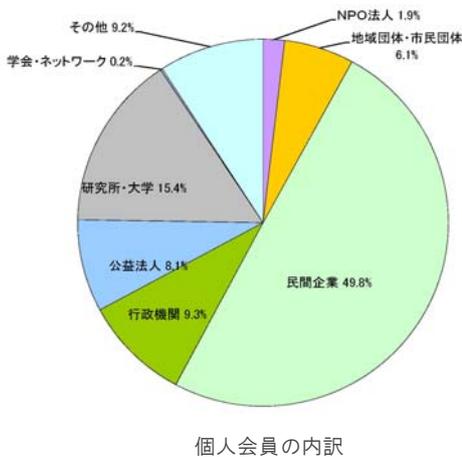
#### ARRN 技術委員会

技術委員会では、「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」発行に向けた最終協議及び発行後のフォローアップに関わる協議を行いました。

## JRRN 組織概要

### 会員構成 (2012年12月現在)

[個人会員] 590名



[団体会員] 49 団体

市民団体・NPO等52%

民間企業 35%,行政機関/公益法人等10%

### JRRN 団体会員メンバー (五十音順)

#### (NPO・地域団体・市民団体)

- いわていい川づくり研究会
- NPO法人印旛沼広域環境研究会
- NPO法人おおい環境保全フォーラム
- NPO法人奥天降霧島
- カッパ研究会
- 金目川水系流域ネットワーク
- 川と水辺を楽しむプロジェクト
- 愛護団体 川に学ぼう会in浦上川
- 神田川ネットワーク
- NPO法人京都発・竹・流域環境ネット
- 古賀河川図書館
- 埼玉県河川環境団体連絡協議会
- 認定NPO法人自然環境復元協会
- 隅田川市民交流実行委員会
- たんぼ音楽事務所
- NPO法人地球環境カレッジ
- 東海タナゴ研究会
- NPO法人遠野エコネット
- 名古屋かわを考える会
- 比企の川づくり協議会
- まきはらは水辺の楽校
- 真駒内川水辺の楽校
- NPO法人まちづくりネット熊取
- NPO法人水・環境ネット東北
- NPO法人水辺に遊ぶ会
- NPO法人流域調整室

#### (民間企業)

- イービストレード株式会社
  - 株式会社川崎測量
  - 環境工学株式会社
  - 株式会社建設技研インターナショナル
  - 株式会社コアブレイン
  - 株式会社コミュニティ・ディベロップメント・パートナーズ
  - 株式会社ストリームグラフ
  - 株式会社創景
  - 株式会社大洋土木コンサルタント
  - たきもと
  - 株式会社地圏環境テクノロジー
  - 株式会社ディーリンク
  - 株式会社ドーコン 水工事業本部
  - ナカシマプロペラ株式会社
  - 日建工学株式会社
  - 松江土建株式会社 環境部
  - 株式会社吉村伸一流域計画室
- #### (行政機関・公益法人)
- 倉敷市
  - 公益社団法人日本河川協会
  - 独立行政法人水資源機構
  - 公益財団法人リバーフロント研究所
- #### (研究機関・大学・学会等)
- 応用生態学会
  - 筑波大学白川(直)研究室『川と人』ゼミ

## 会員サービス

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1)国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2)国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先参加できます。
- (3)必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4)JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5)韓国、中国をはじめ、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

上記表内の※印の詳細は JRRN ホームページをご参照下さい：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>



## 日本河川・流域再生ネットワーク

### JRRN Annual Report 2012（平成 24 年 JRRN 活動報告）

---

発行日	2013 年 3 月 22 日
発行	日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
事務局（連絡先）	〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階 公益財団法人リバーフロント研究所 内 Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640 E-mail: <a href="mailto:info@a-rr.net">info@a-rr.net</a> , URL: <a href="http://www.a-rr.net/jp/">http://www.a-rr.net/jp/</a>
事務局員	佐合純造（事務局長）・柏木才助・木村達司・伊藤将文・後藤勝洋・和田彰

---

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

